

第69回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年2月9日(月) 14時～17時

兼題「日脚伸ぶ」

- 川井素山 ○潮入りに魚影掠める春隣
一仕舞ひ車夫の昼餉の根深汁
墨堤に触るる木の芽ふふみたり
日脚伸ぶもり塩白し酒肆の門
- 保井寶正 ○日脚伸ぶ縮む命を知らぬげに
春立ちてまだ潮騒のとよもせり
節分や箸でつまみし豆の数
原宿子カラフルなれど春遠し
- 青木英林 ○日脚伸ぶ縁側に出て爪を切る
春立つや母の背曲がり九十度
陽を受けて健気に咲く福寿草
境内は梅と絵馬とが今盛り
- 後藤克彦 ○降る雪や待つ人無しの路線バス
日脚伸ぶ日毎に増ゆる約束日
霜柱踏む音ねうるさ煩し里の路地
友も来ずつくばい蹲踞埋める落葉かな
- 佐久間喬 ○隠れ里軒埋め尽くす大氷柱
八ヶ岳白さを増すも日脚伸ぶ
夕刊の投函の音日脚伸ぶ
路往けばギョツギョツと鳴く雪深し
- 永井正孝 ○猫のかげ匍匐前進日脚伸ぶ
冬空に富士大山をしたが隋へり
マフラーで氣息包みてペダル漕ぐ
冬木立外灯ともし気配づく

- 佐々木彩女 ○春暗し墨画の如き鴉二羽
子等遊ぶ声いつ迄も日脚伸ぶ
焼畑の続く車窓や米どころ
庭の木の色移りつつ日脚伸ぶ
- 丸山酔宵子 ○ボール蹴る子等の掛声日脚伸ぶ
青空に飛行機雲や日脚伸ぶ
寒の雨首をすくめて縄のれん
夕陽受け残雪染まる露天風呂
- 菊地崇之 ○頻尿や掻い巻きはおり寒凌^{しの}ぶ
日脚伸ぶ明るき内の帰り道
我知らず体に力寒明くる
浅き春寝床名残に別れ告げ
- 牧野里山 ○白河の芭蕉の跡も雪の中
冬山と透き通る空何もなし
雪を踏みあれが遊行の柳かな
日脚伸ぶ青空のもと球を追う
- 佐久間たか子 ○節分や鬼に一献献じたる
寒明けの雪にとまどう受験生
旅の宿ろてん湯つかり日脚伸ぶ
庭木より雪解零の清き線
- 佐伯武雄 ○雪の朝足を取られて老いを知る
物干しの竿の先より日脚伸ぶ
にこごりを明日に残して偲ぶ味
病む母の手袋握り返す笑み
- 大山竜海 ○日脚伸ぶ孫の背丈にそれ続け
盆景のしだれ梅咲き日脚伸ぶ
日照りたる石畳うえ冴え返る
椿花冷える宵闇光あり
- 吉田啓悟 ○寒椿無言でゐたいときもある
読経に木魚の音や冴返る
日溜りに青空透かし梅ひらく
北を指すジェット機きらり日脚伸ぶ

山本草風 ○^{きぬぎぬ}後朝の余韻楽しみ日脚伸ぶ
雪しまき一日の計狂わせり
大寒や病抱へし友思う
新年会話の中に時を見る

金森純女 ○蟻どちも寄り道するや日脚伸ぶ
春塵もわろしとなりぬ瑞穂かな
口ごたえせぬまま逝けり彼岸来る
涅槃会に生まれ五十路や南無阿弥陀

次回 「萩句会」

日時 2015年3月9日（月） 14時～17時

兼題『菜の花』一句

当季雑詠三句 計四句